

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

124号

2024年1月



- * 入会は随時受け付けています。
- * あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

私たちには何ができるのでしょうか

新年あけましておめでとうございます。この言葉を見出しにできないような災害が、元旦に発生しました。過去10年の地震回数をみると、今回の被災地域は、決して地震多発地帯ではありません。

しかし、SmartFLASHの記事によると「まずは石川県。過去10年で震度1以上は662回で、さほど多くはないが、じつは2021年以降、急増している。2020年までは30回以下だったが、2021年89回、2022年202回、2023年はなんと248回。そのほとんどが、今回の地震と同じく、能登半島付近を震源とするものだった。」ということです。また、1月3日付の毎日新聞朝刊によれば、2018年時点での国の耐震基準を満たしている割合は、石川県内6000戸の住宅では57.1%であり全国の87%と比べて低い水準であったということです。古くに建てられた木造家屋が多く、また、高齢化により耐震工事がすすまなかった現実があるようです。さらに、先にも記載したように、2021年以降に急増した地震による度重なるダメージが、今回の大きな被害を生んだのかもしれない。

しかも今回は、3日間で震度7が1回、震度6が1回、震度5が14回と、繰り返し揺れが襲ってきており、耐震工事が済んでいた建物であっても、持ち堪えられなかったのでしょうか。

しかし、私たちの社会は東日本大震災以降、手をこまねいていたわけではありません。医師・看護師・医師看護師以外の医療事務職員の4～5名で構成される、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team (DMAT) は、なんと1月3日までに80チーム以上が編成され、全国各地から被災地の傷病者支援に入ってくれています。これだけの災害でありながら、新幹線が早期に復旧したのも、被災地の支援を考えた時非常に大きなことだと思います。医療関係者のみなさんやJR東日本のみなさんの、日々の備えには頭が下がる思いです。

港北区災害ボランティア連絡会のメンバーも徐々にですが、支援に動き始めてました。

- ・横浜北YMCAではYMCAとして支援金募集を始めています。
- ・ボーイスカウト横浜第8団は1月21日（日）に新横浜駅前前で義援金募集を行います。
- ・座間災害ネットワークの濱田さんの支援物資提供に協力して、支援物資を提供しました。

(中島)

2014-2023年 都道府県別 地震回数

	震度1以上	震度3以上	震度5弱以上
北海道	2242	296	15
青森県	1354	141	9
岩手県	2427	197	11
宮城県	2417	229	8
秋田県	580	45	3
山形県	586	48	3
福島県	2712	295	11
茨城県	2636	301	11
栃木県	1422	176	5
群馬県	934	87	2
埼玉県	968	110	4
千葉県	1668	179	6

	震度1以上	震度3以上	震度5弱以上
東京都	1504	127	7
神奈川県	805	76	2
新潟県	594	54	3
富山県	124	11	0
石川県	662	89	6
福井県	197	16	1
山梨県	451	35	1
長野県	1392	103	5
岐阜県	862	65	0
静岡県	786	58	0
愛知県	262	23	0
三重県	169	8	0

	震度1以上	震度3以上	震度5弱以上
滋賀県	198	16	1
京都府	327	30	1
大阪府	293	25	1
兵庫県	315	27	1
奈良県	212	11	1
和歌山県	729	43	2
鳥取県	693	61	1
島根県	294	22	2
岡山県	340	24	1
広島県	320	24	1
山口県	260	22	1
徳島県	250	22	1

	震度1以上	震度3以上	震度5弱以上
香川県	176	16	0
愛媛県	361	49	3
高知県	315	37	2
福岡県	585	49	1
佐賀県	293	29	1
長崎県	582	41	2
熊本県	4758	567	28
大分県	1181	151	9
宮崎県	939	89	5
鹿児島県	2964	228	6
沖縄県	928	72	1

SmartFLASHより引用（2023年12月末時点）
<https://news.yahoo.co.jp/articles/54ee47c44b7c4de4e2c28fcf5bb4c9e55ceed392>

【募金はこちらから】

石川県
義援金

横浜YMCA
支援募金



シミュレーション訓練実施報告

2023年12月10日（日）に、災害ボランティアセンターの開設シミュレーション訓練を実施しました。横浜市社会福祉協議会が開発・導入したICTなどにより、ボランティアセンターの開設・運営は、社会福祉協議会が主体となったことから、今回の訓練についても、港北区社会福祉協議会のメンバーを中心に実施しました。実施した訓練は次のとおりです。

- 1：スマホによるICTへの受付登録 および 登録の支援
- 2：ボランティアの派遣および作業想定
- 3：スマホによるICTへの報告入力
- 4：港北区社会福祉協議会のメンバーによる作業結果ヒアリング

「ボランティアの派遣および作業想定」では、訓練に参加いただいた聴覚障害者の皆さんのみのチームを作成し、どのような意思疎通ができるか、などにもトライしました。

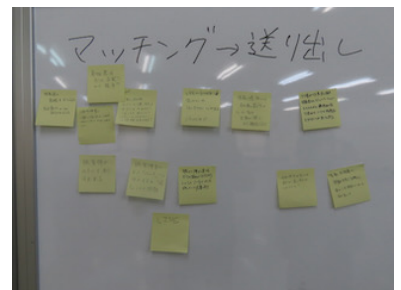
今回の訓練で得た「気づき」を以下に記載しました。

<当日受付>

- ・ 入力は楽になっているが、スマホに不慣れな人をどうするかは課題
- ・ QRコードを読めない方がいた（アプリが入っていなかった）
- ・ メールアドレスが必須になっており、メールアドレスをもっていない方は登録できない？
- ・ チェックボックスが小さい かつ 薄い
- ・ 入力内容がメールで戻った方がいい
- ・ QRコードを何カ所かに掲示してはどうか・・・パウチしてスタッフが回るのがスムーズか
- ・ 活動する区を選択はダブルタップではなく、シングルタップでいいのでは

<マッチング・送り出し>

- ・ 活動依頼書に、活動する人の名前を書く場所がない・・・誰が何をしたという記録までは残さない方針でいいのか・・・把握したいが、今のシステムでは把握できない
- ・ 活動依頼書の裏に、参加ボランティアの名前を手書きして対応するしかないか（1枚センター、1枚リーダー）・・・活動依頼書を2枚渡す対応にするか
- ・ QRコードの地図の読み取りがうまくできなかった・・・Safariで読めなかった・・・派遣されるグループ全員が読めなくても、一人が読めれば対応はできるか
- ・ Googleマップで読めなかった住所があった・・・Googleマップのエラー
- ・ 地図はGoogleマップのみでいいのか。Googleの表示が正確か、ボランティアセンター側で事前に確認しておく必要があるのではないか
- ・ 聴覚障害の方とのコミュニケーション手段が必要・・・LINEでのやり取りがよさそう（グループを作ってしまう）・・・若い人にLINEの入力担当として専任してもらうのもいいのでは
- ・ 健常者のグループもLINEグループで都度情報入力する方がいいのでは（グループにボランティアセンターの人も入れておくと便利）
- ・ 作業内容をLINEに入れる＝書記＝作業内容を理解できるので若い人の育成にもなる



<報告>

- ・ 報告内容がメールで本人に戻ってきて、報告内容を確認できたほうがいい
- ・ 派遣されるボランティアメンバーの名前の入力できたほうがいい
- ・ 特記事項のみで入力しづらい・・・もう少し細かく入力項目分けができないか
- ・ 作業場所の途中の道路状況などは入力しなくていいのか・・・口頭で追加報告か？LINEグループを作るならそこで随時報告可能か または 電話で都度報告か
- ・ 被災状況の管理はボランティアセンター内で行う・・・活動依頼書に反映するためには社協の入力が必要・・・入力する情報は取捨選択する必要はあるか
- ・ 報告を聞きながら入力するのは難しい
- ・ 道路状況などは従来通り書き出して掲示が必要では
- ・ ボランティア800人/日、1グループ5人とすると160グループ。今回の訓練では1グループ3分かかっている。そうすると、全部の報告をうけるのに担当者が1名なら8時間かかることになる・・・活動報告のヒヤリング方法や要員の手配などが必要
- ・ 活動報告が「活動内容」と「引き継ぎ特記事項」しかなく、聞き取るべき内容が把握しづらい・・・作業完了の有無とかは別項目にあるといい 報告してほしい内容を項目として別立てにしておいた方がいい
- ・ 活動依頼書も個人情報保護から、返却を義務にして管理すべきだった

残念ながら参加者は、港北区災害ボランティア連絡会メンバー7名、一般参加者2名、港北区社会福祉協議会3名、港北区役所1名と少なめでしたが、内容はとても充実していたと思います。とはいえ、ボランティアセンターの開設・運営が、港北区社会福祉協議会となった以上、港北区社会福祉協議会のメンバーが参加しやすい環境での訓練実施方法を検討する必要があると感じました。(中島)

2023年度防災・減災カレッジ 受講内容から (その2)

～建築物の耐震化 名古屋大学災害対策室 護雅史さんのセッションから

大きな地震災害が発生するたびに、建築基準法は改正されてきました。

- 1923年関東大震災 → 1924年市街地建築物法改正
- 1948年福井地震 → 1950年建築基準法
- 1968年十勝沖地震 → 1971年建築基準法施行令改正
- 1978年宮城県沖地震 → 1981年建築基準法施行令改正 (新耐震)
- 1995年阪神・淡路大震災 → 1995年建築基準法施行令改正・1995年耐震改修促進法

その結果、建物の耐震性は向上してきていますが、古い建物については「耐震改修」の義務化はされておらず、結果として新築年によって耐震性に大きな差が発生している現実があります。建物が全壊する時の震度が正規分布に従うと仮定して、西宮市をサンプルとして想定したデータでは、全壊率は次の通りとなります。

- 昭和45年以前の木造建物・・・震度6弱 20%弱 震度6強 80%強
- 昭和46年から昭和55年の木造建物・・・震度6弱 10%強 震度6強 60%強
- 昭和56年以降・・・震度6弱 数% 震度6強 15%強

また、地震の周期と建物の「固有周期」が同じになると、建物に「共振」が発生し、揺れが大きくなります。地震の周期は、震源の深さと地盤の強弱で決定されますが、震源が浅いほど、地盤が柔らかいほど短くなります。新しくて柔らかい地盤で震源が浅い時は、低層の建物が「ガタガタ」とおおきく揺れることになるそうです。

その上、地震は建物の弱点を狙います。壁や筋交が少ない、屋根が重い、老朽化している、基礎が弱い、柔らかい地盤などが、地震にとっては「狙い目」になっています。耐震工事は100万円前後の費用がかかります。しかし「100万円で命が買える」そう思って、自宅の耐震性、見直してみましょう。

(中島)

聴覚障害の方とのコミュニケーションを考える ～シミュレーション訓練から学んだこと～

昨年12月10日に実施したシミュレーション訓練では、あえて聴覚障害のある方だけでチームをつくり、健常者であるボランティアスタッフを手話ではなく健常者が誰でも使用できるツールで、どうすればスムーズな情報伝達ができるかにトライしました。健常者と聴覚障害者が、無理なく意思疎通できれば、聴覚障害者の方に無理なくボランティアとして活動していただくことも可能になります。また、日常生活での聴覚障害の方へのサポートの参考にもなると考えました。

□ 筆談

基本的な方法になりますが、やはりまどろっこしさは残ります。ただ、聴覚障害の方にノートを持っていただいて、ノートで交換日記のようにやり取りをすると、履歴が残ってよさそうです。メモで書いてすぐ廃棄する形では、過去の対話を参照できず、不便です。

□ 筆談ボード

書いて消すタイプのボードでは、書くことより消すことが手間になります。また、履歴が残らないのも不便です。最近では、電子メモが安価に販売されています。電子メモであれば一瞬で消すことができます。他の機器とwifiで接続することで履歴を残せる機器もあります。

□ 音声翻訳アプリ

言葉を文字に変換してくれるアプリが多数あります。翻訳アプリ兼用のものもあり、直接入力した文字を、日本語のまま表示したり、日本語や外国語に翻訳して表示できるものがあります。

実際に全てを試してみましたが、やはり一長一短があるようです。特に、聴覚障害の方に「伝える」ことは簡単なのですが、聴覚障害の方から「聞き取る」ことに難しさを感じました。避難所などでは「聞き取る」ことのほうが重要なので、大きな課題だと感じました。訓練の最後に聴覚障害の方に、どういう方法がいいですかとお聞きしたところ教えていただいたのは「LINEのグループチャット」でした。目から鱗とはこのことでした。

筆談や音声翻訳アプリについては、実際の製品やアプリ名称なども、今後ご紹介したいとおもいます。
(中島)

～防災コラム～ 日用品の利用を考えてみよう

能登半島地震では、やはり「寒さ」と「トイレ」が大きな課題になっています。防寒グッズはいろいろありますが、警視庁がX（旧Twitter）で情報発信したように、ダンボールを下に敷くことはとても有効です。また、アルミの飲料ボトルにお湯をいれてタオルで巻き、足元に置けば「湯たんぽ」になります。非常用トイレがないときは、ペットのトイレシートをゴミ袋に入れて使用するのも良いそうです。

非常用食料もローリングストックが有効であるように、日用品をどう被災時に転用できるかを考えて生活することも大切ですね。
(中島)

【編集後記】

- 元日に発生した能登半島地震の被害の全容が把握できませんが、被災された方が多くいます。自分にできる被災地への支援を考えていきます。（鴨下）
- 1月1日の少しゆったりした時間帯にあの揺れが来ました。「災ボラとしてもっと真剣に」と緊張のときでした。（付岡）
- 能登半島地震、被害の全貌が判明するまでには相当時間がかかりそうです。現地にボランティアで入られているNPO法人レスキューアシストの方がFaceBookで、道路の寸断と雪にはばまれて、被災地まで辿り着けないと嘆かれていました。自衛隊も立ち往生しているところがあるようです。（中島）